

第12回たじみ子ども会議「意見書」

けいかほうこくしょ  
経過報告書



平成22年11月

多治見市

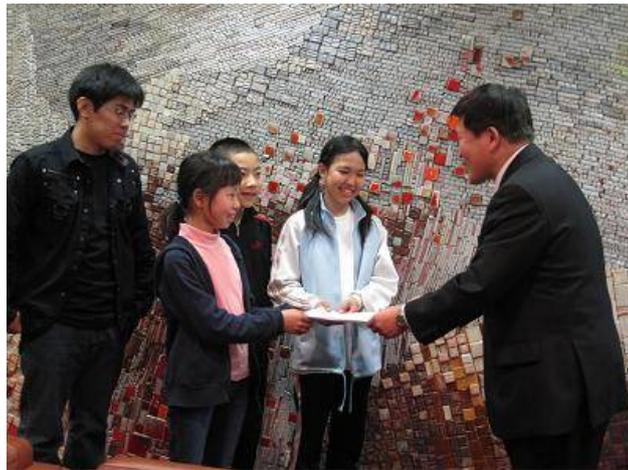
# もくじ 目次

## けいかほうこく 経過報告

1. バリアフリー
2. 子どもの居場所づくり
3. 商店街と子ども
4. まちづくり子ども対象アンケート

## さんこうしりょう 参考資料

### だい 第12回たじみ子ども会議「意見書」(写)



写真：第12回たじみ子ども会議「意見書」提出時の様子  
(平成22年2月24日)

## 提案 1. バリアフリー (1)全般

赤ちゃんから高齢者まで、障がい者、外国人、誰もが、物理的にも心の面でもバリアフリーなまちづくりを行われるよう要望します。また、バリアフリーのまちづくりに子どもも一緒に取り組めるよう要望します。

### 市の考え・対応

だれもが安心して生活できるまちづくりを推進していくために、平成22年度中に「第3期多治見市バリアフリー推進計画」をつくりまします。計画では、「施設のバリアフリー」と「こころのバリアフリー」を盛り込み、この計画をもとにバリアフリー事業を進めていきます。

また、「こころのバリアフリー」の啓発事業を行うときに、企画段階から子どもと一緒に考え、同世代の子ども達に訴えることができたるとてもすばらしいことだと思ひます。今後、子どもと一緒に取り組めるよう検討を行っていきます。

(健康福祉政策課)

## 提案 1. バリアフリー (2)障がい者の居場所づくりについて

- (1) 障がい者の居場所を確保するために、施設の増設など、受け皿確保に向け検討することを提案します。
- (2) 市民に身近な場所になるために、施設の名称等も含め、施設や障がい者の理解を得るための広報や交流の機会をつくることを、事業所に働きかけることを提案します。
- (3) 市民が、障がい者との交流やボランティアに参加していくよう、働きかけることを提案します。

### 市の考え・対応

- (1) 障がい者が地域で安心して元気に暮らせるように、必要な施設を整備していくことは大切なことです。ただし、障がいの程度や生活の状況は人ごとにさまざまですので、施設だけではなく、地域や自宅での生活も含めて、障がい者を総合的に支援できるような仕組みを作っていく必要があります。関係する団体などと協力して、障がい者が暮らしやすいまちづくりを行っていかうと考えています。
- (2) 施設の名称は、市民の皆さんに親しんでもらえるように募集して決めることもあります。また、施設やその利用者の人たちは、お便りなどでふだんの活動を紹介したり、お祭りなどで地域の方々との交流を深めたりしています。これらを通じて、いっそう障がいに対する理解が深まることを期待しています。

- (3) 障がい者が人とのふれあいの中で社会とのつながりを感じ、一人ひとりの役割が果たせるような社会が求められています。学校や職場、地域で障がいについて学んだり、行事などで障がい者と交流する機会を増やして、「こころのバリアフリー」を進めていくよう努めます。

(福祉課)

## 提案2. 子どもの居場所づくり

- (1) 多治見市が検討している、駅北の公共施設の中に、子どもたちが自己表現できるような施設の整備を提案します。  
(施設内容)  
音楽や体を動かすことができ、子どもたちが交流できるオープンスペースがあり、子ども情報センター機能を持った施設。
- (2) 施設整備や運用は、子ども参加によって行うことを提案します。

## 市の考え・対応

- (1) 市は、広報たじみ(平成21年2月号)「まちの中心ににぎわいを創るために」で、保健センターや子育て支援機能を持った児童センターを提案し、市民からの意見募集をしたところでは、

また、平成21年度に駅北の施設を検討する委員会からも、子育て情報・子どもの遊び場を提供する児童センターの役割を持たせること、また運営そのものについても、市民が積極的に参加し自分たちの施設であることを身近に感じるような仕組みが必要であるとの提言を受けました。今後は、この提言を参考にしながら進めていくものです。

(区画整理課)

- (2) 笠原児童館開館にあたり、平成21年8月に笠原地域の子ども達たちによる「子ども会議IN笠原」を開催して、笠原の児童館づくりについて話し合いました。この会議で出された意見を取り入れて、平成22年4月1日に笠原児童館を開館しました。

また、市内児童館・児童センターでは意見箱等を設置し、利用者の意見を事業や施設運営に反映できるようにしています。

(子ども支援課)

公民館事業の企画運営への子どもスタッフ等の参加、意見箱の設置やアンケートの実施、子ども情報センターでは高校生が小中学生に向けた講座を企画するなど、文化施設の整備や運営について、子どもの思いを生かすような取り組みをしています。

(市民文化課)

### 提案3. 商店街と子ども

多治見の商店街のにぎわいを取り戻すために、次のことを提案します。

- (1) 空き店舗を利用して子どもが自由に集まれる場所をつくることを提案します。

理由：子どもが集まることは、商店街のにぎわいにつながることでと考えます。

- (2) 商店街づくりに、子どもの意見を積極的に反映することを提案します。

理由：子どもも商店街を訪れる市民の一員です。子どもの意見を商店街づくりに反映することは、誰もが訪れたい商店街づくりにつながると考えます。

### 市の考え・対応

- (1) 商店街の空き店舗を利用し、子どもが自由に集まれる場所をつくることは、子どもにとっても商店街にとっても大変良いことだと思います。

しかし、空き店舗を利用するためにいろいろ調べたところ、お店の修繕料、家賃などによりかなりお金がかかることや、子どもたちが安全に施設を利用するためには、施設をずっと管理していけるおとなが必要だということが分かりました。

また、商店街に子どもの居場所をつくるには、子どもたちが具体的にどんな場所があると良いと思っているのか、要望（ニーズ）を聴く必要があります。

以上のことから、今すぐ空き店舗を利用して子どもが集まれる場所をつくることは難しいですが、市としてはこの提案に沿ったアンケートを実施する予定です。その上で、どんな風に空き店舗を活用するのが良いかを考えていきたいと思っています。

(人権推進室)

- (2) 今年度は多治見まちづくり株式会社(TMO)が、多治見西高等学校の生徒11名を対象に商売を始めるための専門家や店主などを講師として、商店街で創業するための講座を計20回開催しました。その集大成に実店舗における販売体験として、7月に「多治見西高等学校スマイルショップ」を銀座商店街にて実施しました。

この事業を通して分かった、高校生の商店街に対する意見を、今後の商店街の活性化策を考える上での参考にします。

(産業観光課)

## 提案4. まちづくり子ども対象アンケート

多治見市のまちづくりについて、子ども対象アンケートを実施することを提案します。

### (1) 対象年齢

- ・6歳～17歳（小学1年生～高校3年生相当）

### (2) 内容

#### ①多治見のまちづくりへの希望

ア まちづくり全般について

イ 多治見のまちづくりにどう参加したいのか（希望）

（例） 子ども会議開催方法などについての希望

ウ 子どもが利用する施設についての希望

（例） 開設時間

エ 商店街空き店舗を利用した子どもの居場所についての希望

#### ②人権（子どもの権利）についての考え 等々

### (3) その他

アンケートは子どもにも答えやすいものにする

## 市の考え・対応

平成12年から定期的に実施している「子どもの権利に関するアンケート」の第3回目を市内に住んでいる10歳～17歳の子ども500人を対象として平成23年度に行う予定です。この中で、子どもが答えやすいように質問の仕方を工夫しながら、提案された事柄をできるだけ取り入れていきたいと考えています。

また、小学1年生から小学4年生の低学年対象のまちづくりアンケートについては、別に実施できるか検討中です。

（人権推進室）

### （まちづくりへの子ども参加 具体的な取組内容）

#### ①平成22年度「多治見の未来」絵画コンテストの開催

市制施行70周年を記念し、市内に住んでいるか、在学している小学生、中学生、高校生から多治見の未来を描いた絵画を9月から10月にかけて募集しました。

平成23年2月25日～27日に産業文化センターにて展示する予定です。

#### ②平成23年度 第6次総合計画（後期見直し）への意見聴取（予定）

まちづくり計画の見直しをする中で、市内に在学する小学生、中学生、高校生の意見を募集し、計画に反映していく予定です。

（企画課）

多治見市長 古川雅典 様

## 第12回たじみ子ども会議「意見書」

第12回たじみ子ども会議を10月11日に開催し、「10年後の多治見にあなたは暮らしていますか」というテーマで、多治見市のまちづくりについて話し合いました。多治見市子どもの権利条例に基づいて、意見をまとめ、提出いたします。

子どもの権利条例では、市はこの意見を尊重することが定められています。この意見書に基づき、子どもも市民の一員としておとなと共に参加するまちづくりが、実現するよう期待しています。

平成22年2月24日  
たじみ子ども会議

記

### 1. バリアフリー

#### (1) 全般

##### 現状と課題

多治見市の10年後を考え、子ども会議などで色々な人の意見を聞きました。

これから高齢者になるおとなや障がい者など色々な立場の人から、バリアフリーのまちづくりは絶対必要だという意見を多く聞きました。

10年後誰もが住みやすいまちをつかっていく必要があり、バリアフリーは重要だと考えます。

##### 提案



だれもが夢をかなえられるまちになるといいなあ。

バリアフリーはこれからの多治見にとって大切だと会議を通して実感しました。

赤ちゃんから高齢者まで、障がい者、外国人、誰もが、物理的にも心の面でもバリアフリーなまちづくりを行われるよう要望します。また、バリアフリーのまちづくりに子どもも一緒に取り組めるよう要望します。



ボランティアをする人がまちの中で増えていくことも必要だね。

## (2) 障がい者の居場所づくりについて

### 現状と課題

子どもは誰でも夢があります。将来自分のできることでいきいき充実した日々を送ることができるとを願っています。でも障がいがあるために、自分らしく社会と関わっていきける生活を送ることができるのか不安を抱えている子どもがいます。

障がい者の居場所づくりが大切です。しかし、市内では、そのための受け皿が足りなくなる見込みだと聞き、その確保が望まれます。

また、障がい者の居場所づくりには、周りの人たちが障がい者のことを知り、理解することと共に、居場所となる施設が市民にもっと親しみやすくわかりやすい場所になることが必要です。現在市の「授産所」で、市民にわかりやすくなるように施設の名称を変更しようとしていることは、よいきっかけと考えます。

**分かりづらさをなくしないと、周りの  
人との交流も進まないと思う。**



### 提案

- 1 障がい者の居場所を確保するために、施設の増設など、受け皿確保に向け検討することを提案します。
- 2 市民に身近な場所になるために、施設の名称等も含め、施設や障がい者の理解を得るための広報や交流の機会をつくることを、事業所に働きかけることを提案します。
- 3 市民が、障がい者との交流やボランティアに参加していくよう、働きかけることを提案します。

**みんなに障がい者のことを知  
ってほしい！！**



## 2. 子どもの居場所づくり

### 現状と課題

現在、多治見市には、太平児童センター中高生スペース、子ども情報センターなど、地域に子どもの居場所となる施設が増えてきており、うれしいことだと思っています。しかし、すべての中高生等の生活の場からのアクセスを考えると、利用が難しいところもあります。また、太平児童センターの音楽スペースは防音機能がついておらず、十分に利用することができないと聞いています。

私たちは自由にかつ安全に自己表現できるような場所が、子どもたちが利用しやすい場所にあり、子どもが有効に活用することができるとよいと考えます。

また、中高生の居場所とそれ以外の子どもの居場所を分けずにいっしょにしたほうが、違う年齢同士のいい関係が生まれると考えます。



**中高生と小学生を分けないスペース  
があってもいいんじゃないの？**

## 提案

- 1 多治見市が検討している、駅北の公共施設の中に、子どもたちが自己表現できるような施設の整備を提案します。

(施設内容)

音楽や体を動かすことができ、子どもたちが交流できるオープンスペースがあり、子ども情報センター機能を持った施設。

- 2 施設整備や運用は、子ども参加によって行うことを提案します。

利用のルールも自分たち  
で決めたい!



## 3. 商店街と子ども

### 現状と課題

私たちは、今近所の人と交流する機会も少なく、残念に思っています。でも、旅行をしたときに朝市を利用したり、立ち寄ったまちの商店で買い物をしたりすると、まちのにぎわいや商店の人との生の会話のやりとりにとっても魅力を感じます。それは、人と交流している実感を持つことができるからです。

多治見の商店街も、にぎわいを取り戻すことができると、人との交流を楽しむことができると思います。魅力のあるまちは、市外からも人を呼び寄せることもできると思います。

「この魚どうやって料理するの?」とか聞いてみたい!



### 提案

多治見の商店街のにぎわいを取り戻すために、次のことを提案します。

- 1 空き店舗を利用して子どもが自由に集まれる場所をつくることを提案します。

理由：子どもが集まることは、商店街のにぎわいにつながるのだと考えます。

- 2 商店街づくりに、子どもの意見を積極的に反映することを提案します。

理由：子どもも商店街を訪れる市民の一員です。子どもの意見を商店街づくりに反映することは、誰もが訪れたい商店街づくりにつながると考えます。



会話のできる商店街にしたいな。

## 4. まちづくり子ども対象アンケート

### 現状と課題

まちづくりに子どもが積極的に参加していくことは、私たちの願いです。

まちづくりについて、子どもを対象にアンケートをとることで、10年後はおとなとなる子どもたち、また10年後の子どもたちのための意見が出され、まちづくりの参考とすることができると考えます。また、これをきっかけに、子どもたちがまちづくりや、子ども会議について関心を持つことができると考えます。

子ども会議のとirik  
み、みんなに広げたい！



### 提案

多治見市のまちづくりについて、子ども対象アンケートを実施することを提案します。  
(アンケート内容)

(1) 対象年齢

・6歳～17歳(小学1年生～高校3年生相当)

(2) 内容

①多治見のまちづくりへの希望

ア まちづくり全般について

イ 多治見のまちづくりにどう参加したいのか(希望)

例 子ども会議開催方法などについての希望

ウ 子どもが利用する施設についての希望

例 開設時間

エ 商店街空き店舗を利用した子どもの居場所についての希望

②人権(子どもの権利)についての考え

ほか

(3) その他

アンケートは子どもにも答えやすいものにする

小学1年生だ  
からこそ見える  
ものもある  
と思う。

子どもたちがまずまちづくりに興味を持つことが大事。そうすれば、色々な楽しい意見も出てくるはず!!  
子どもたちが関心持つよう、私たちからも働きかけます!!

絵を入れたり  
するのいい  
と思う。



子ども会議に出ようと思っても予定が合わない子や、会議に出てもどうやったら話せるか不安を持っている子がたくさんいると思う。みんなが参加できるようにするためのアンケートにしたい。

